

私のテーマ

熊大医学部付属病院
第一内科

徳臣晴比古教授

「有機水銀中毒（水俣病）を臨床的立場から研究、なかでも異型病像（従来とは異なった症状の水俣病）の存否の解明に取り組んでいる」

有機水銀は脳など神経組織の中に入り込みやすく、神経に強い障害を与えるのが特徴。有機水銀を脳などから取り除いて中毒を直す薬としてキレート物質が以前から知られている。キレートというのは「カニのハサミではさむ」という意味で、体内の有機水銀をはさんで、排出作用を行なう便利なもの。中毒のごく初期にこの特質を使用すれば、障害が残らないですむ。実際に水俣病患者で同物質を使ってかなり直った例がある。しかし、これはあくまで初期に投用した場合だけで、水俣病は患者が症状を自覚したときには、すでに細胞が死んでいるほど病変の進行スピードが速く、しびれ感が出て

から言語障害、手足のふるえなどが起きるまで、平均二週間ぐらいなので、同物質の使用効果も限定されてしまう。

このため、ある程度病変が進んだあとでも有

機水銀によって破壊されていることはわかっているが、どの酵素がどんな仕組みでこわされるのかがまだ解明されていない。この酵素破壊のメカニズムを解明するため、動物実験によって有機水銀中毒にかかった脳組織と正常な脳組織の酵素の致について比較、研究中。このメカニズムが明らかになれば、有機水銀に冒されかかった酵素を生き返らせることも可能になり、さらには水俣病の新たな治療にもつながっていく。

水俣病と取り組む 異型病像の存否求めて



効な治療法が望まれて

現在のい

わゆる水俣病の症状とは全く違った症状の有機水銀中毒―異型病像があるのではないかと考え、脳が化学的によろしくに変化するか、染色体への影響などについて実験的に調べている。

「水俣地方には神経性の患者が多い。これらの患者の症状は水俣病とは異なるが、同じ有機水銀中毒によるものかもしれない。この研究を始めたキツカケだ。動物実験はネズミが主で、メドがついたからネコの実験に切り替えているが、最近ネコが少なくて手に入らず困っている」そうだ。

今のところ、脳の酵素が有